

【熊本国税局長賞】

税金の本質と身近な社会貢献

延岡市立南中学校

二年 坂元 琴果

『日本の国民なのに、この国の社会のしくみについて全くの無知というのはまずい事だと思うんだよね。大人になると「知らない」という事は「知る努力をおこたっている」という印象を相手に与えることになるんだよ。』

これは、何年前かに父が私に言った言葉です。そして今回、税に関する作文を書くにあたって私が思い出した言葉でもあります。私はこれまで、税金と聞くと、しくみが難しくそれで私にはまだ早い話だと思っていました。でも、父の言葉を思い出したことで、「私にはまだ早い」と決めつけて、理解するのを後回しにするのは良くないことだと気づきました。だから、この機会に、税のことについて今までより深く考えてみようと思いました。

調べてみると、税金が一番多く使われているのは、私たち国民に最も身近で直接関わりがある「社会保障」だとわかります。社会保障には、医療、介護、年金、子ども・子育て支援などがあります。これらを見ると、税金は私たちの暮らしを生涯にわたって支援してくれていることがわかります。また、上下水道や道路の整備、ゴミの処理、警察や消防の活動など様々な所で税金は使われています。

私たちは税金を納めることで、安心して生活するための様々なサービスを受け取っているのです。そして、そのどれもが重要な役割を果たし、私たちにとって必要不可欠なサービスであることを忘れてはいけません。

ところが、ある世論調査の結果では、国民の約七割が税金を負担に感じているといいます。私は、この結果は「税金の本質」を見落としてしまっている国民が多いからこそその結果だと考えました。

みんなで納めた税金がみんなのために使われる。このとても素敵で素晴らしいお金のサイクルを国民全員の力で回している、という事実こそ税金の本質ではないのでしょうか。私は、このことに気づいた時、自分もこのサイクルを回している一人であることも、とても誇らしく思えてきました。

サイクルというのは、回す人の心の持ちようによって好循環にも悪循環にもなりえます。私たちが税金を負担に思うのか、それとも誇りに思うのか、考えや思いは人それぞれです。ですが、もし金額だけで「税金は負担だ」と思っている人がいるのなら、金額ではない別の視点から税金について考えてほしいと思います。なぜなら、税金のしくみの中には「知らうとしなければ見えてこない大切なこと」がたくさんあるからです。「税金の本質」は、その中の一つです。私はこのことに気づいたことで税金に対する意識が変わりました。

税金は、私たちの思いを乗せて回ります。思いの詰まったこのサイクルを私たち国民が誇りを持って回すことで、税金の好循環へとつないでいく。これこそが、私たちができる一番身近な社会貢献だと私は考えます。